

東京2020:10万人プロジェクト 総括
～皆様とともにつくるフードセーフティネット～

2021年10月13日
セカンドハーベスト・ジャパン
フードバンク部 坂本 瑤子

◆ 東京2020:10万人プロジェクトの概要

◆ プロジェクトの進捗

◆ プロジェクトの成果と社会の変化、今後に向けて

東京2020:10万人プロジェクトの概要





食べ物に困ったとき、住まいの近くに
食品がすぐに受け取れる場所がある。



そんな社会環境を目指します。

10万人プロジェクトとは、セカンドハーベスト・ジャパン(2HJ)が、
企業や行政、NPO、宗教団体などとの協働し、フードセーフティネットとなる

「食品の受け渡し場所 =  フードパントリー」をみなさんと築き、

2020年の1年間だけで、東京都内で10万人に対し

「生活を支えるのに十分な食べ物」を渡すことを目標としています。

・フードセーフティネットとは

すべての人が経済レベルに関係なく、明日の食事について心配すること無く、いつでも必要なときに栄養のある食べ物を得ることができる仕組み・社会のこと。

・フードパントリーとは

元は「食料貯蔵庫」を意味する言葉で、食の支援を必要とする人が食品を受け取る事ができる場所、あるいはその運営のこと。

- ・「フードセーフティネットの構築」という大きな目標に向けたプロセスとして、本プロジェクトでは「フードパントリーを増やす」ことを目標とする。
- ・2hjの主な活動エリアである東京・神奈川・埼玉において設置数目標を設定。



各フードパントリーで、1週間あたり15世帯(世帯人数2人)へ食品を提供と仮定すると、東京で年間10万人超の食を支える計算。(15世帯×2人×73か所×50週=109,500人)

食べ物に困ったとき、住まいの近くに
食品がすぐに受け取れる場所がある。

そんな社会環境を目指します。



10万人プロジェクトとは、セカンドハーベスト・ジャパン(2HJ)が、

企業や行政、NPO、宗教団体などとの協働し、フードセーフティネットとなる

「食品の受け渡し場所=  フードパントリー」をみなさんと築き、

2020年の1年間だけで、東京都内で10万人に対し

「生活を支えるのに十分な食べ物」を渡すことを目標としています。

東京2020:10万人プロジェクトの概要 ~プロジェクトの要点



■フードパントリーの啓発・立ち上げ支援

・フードパントリー立ち上げセミナーの実施（2018～19年）



*セミナー、見学・説明会の写真は
いずれもコロナ前のものです。

・埼玉拠点見学会 & 説明会の実施（2018～21年）



・フードバンクシンポジウム／フードセーフティネットシンポジウムの実施(毎年)



・フードセーフティネット会議の実施(毎月)

■食品取扱能力の強化

- ・埼玉拠点の立ち上げ、ウォークイン冷蔵庫・冷凍庫の導入



倉庫外観



倉庫内観



冷凍庫

- ・様々な企業とのコラボレーション

物流企業によるご支援(輸送協力、倉庫スペースの提供)、多様な形でのご参加



協力会社様の倉庫への輸送



企業単位でのボランティア参加



JA様からの野菜寄贈

■その他

- ・2hjパントリーの進化「marugohan(まるごはん)」 *現在はコロナ感染対策のため形態を変え実施



- ・プロジェクトの協賛金



Partnerships for SDGs

XXXX 様

セカンドハーベスト・ジャパンが主催する、10万人プロジェクトへの多大な貢献に感謝いたします。

10万人プロジェクト「Food for 100,000 Tokyo 2020」は、2020年に支援を必要とする10万人の方々に食のセーフティネットを提供するプロジェクトであり、同時に廃棄食品の削減を促進する活動です。

プロジェクトへの協賛は、国連と政府が推進する「SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS」の1、2、3、11、12、17の目標に関する具体的な行動であり、貴社の「社会貢献」理念の実践と、当団体とのパートナーシップを示すものとして、これをお贈りいたします。

2020年11月4日
セカンドハーベスト・ジャパン代表
マリア・トリネ・ネーデルズ *Charlie*

Food for 100,000 Tokyo 2020

SECOND HARVEST

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- ・行政との連携



セカンドハーベスト・ジャパン×埼玉県
浅草橋フードパントリー
& 埼玉拠点
見学ツアー

定員15名
7月4日(木)
13:00~16:00
先着順受付



Second Harvest Japan (2HJ)
2018年11月12日

【「かながわ子どものみらい応援団マッチングフォーラム」に出展しました】

11月7日(水)、神奈川県が主催する「第2回 かながわ子どものみらい応援団マッチングフォーラム」にパネル展示にて参加してきました！
神奈川県大和市にある2HJ神奈川拠点での活動紹介に加え、今年に入り東京・埼玉で急速に拡大している「こども食堂運営団体がフードパントリーを開設するモデル」を神奈川でも推進するための情報発信を行いました。当日は子ども支援の団体、行政、社会福祉協議会、企業など様々な立場の方が200名近く来場され、各地域で様々な子ども支援の活動が広がりを見せていることを実感しました。... もっと見る



プロジェクトの進捗

Tokyo

東京



Kanagawa

神奈川



Saitama

埼玉



※フードパントリーは2HJが直接運営、または2HJの支援を受けて外部団体などが運営しているものが含まれます。(2021年9月末時点)

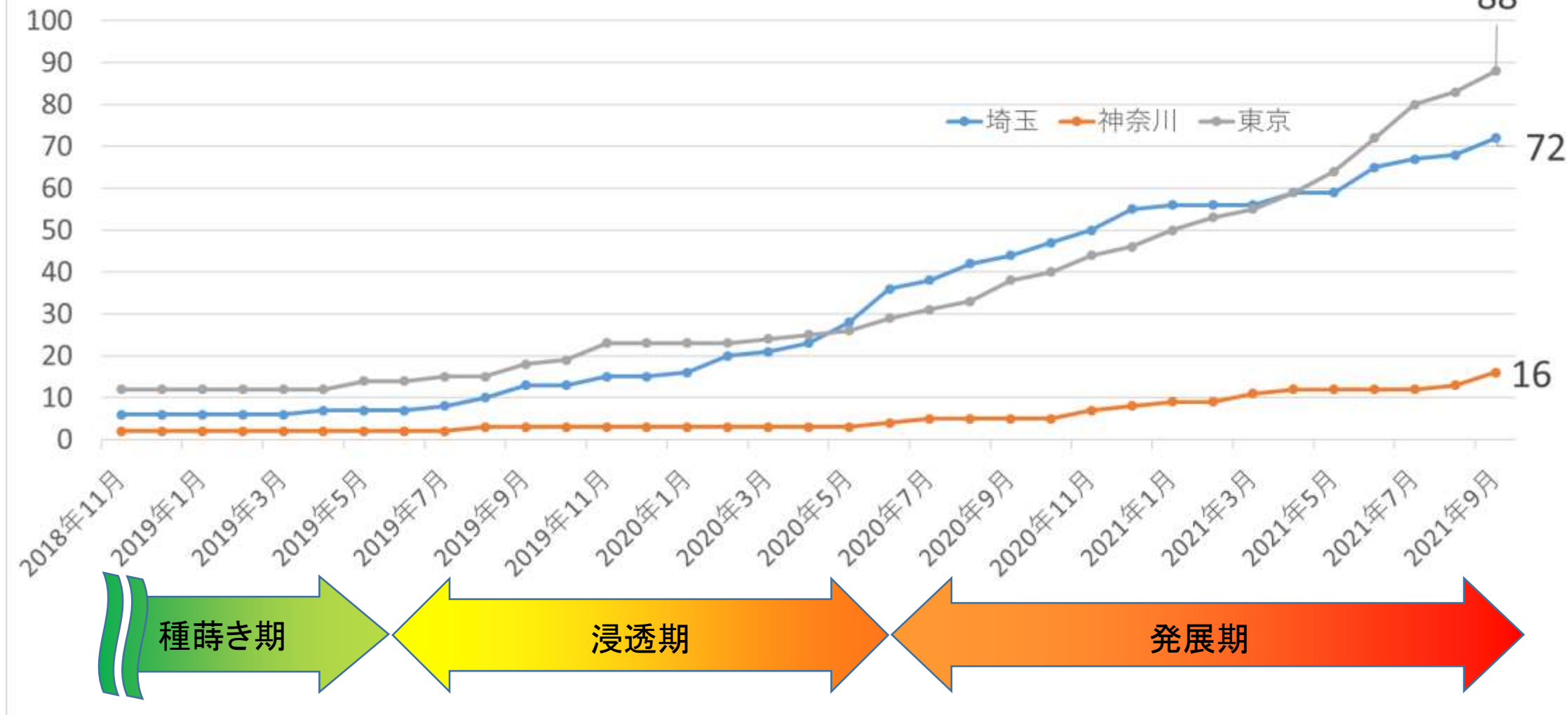
※フードパントリー1カ所につき、週に15世帯程度の新規利用者へ食品が受け取れる体制を想定しています。

2021年9月末時点までに、176か所のフードパントリーが誕生！

- ・ 1都2県の合計数では、目標135か所に対して176か所と当初目標を上回る成果。
- ・ 県単位では、東京と埼玉で目標達成。特に埼玉は目標を大幅に上回った。神奈川のみまだ目標を下回っている。

都県別 パントリー拠点新設数の推移

*出典：2hj（2hjが食品を提供するフードパントリーの新設数をカウント）



①種蒔き期

- ・まずは「フードパントリー」という言葉・取り組みを知ってもらう
- ・興味のある方・団体への啓発
- ・フードパントリー立ち上げ・運営ノウハウの伝授

②浸透期

- ・フードパントリーの事例蓄積
- ・団体同士の横のつながりから「自分も立ち上げたい」との動き

③発展期

- ・コロナ禍の影響もあり、「食の支援」の必要性の顕在化
「食事の提供」という形態が難しいことも重なり、フードパントリーへの注目が急上昇
- ・「フードパントリーの担い手」と「フードパントリーへの支援」がともに拡大。
- ・各フードパントリーの運営も進化（相談対応、学習支援、定期開催外の緊急支援 等）

プロジェクトの成果と社会の変化、 今後に向けて

「フードパントリー」の社会への浸透

・プロジェクト開始当初
「フードパントリーという取り組みを知っていますか？」
「一緒に取り組んでみたい団体さんはいませんか？」と
啓発に取り組んでいた



・現在
「私たちもフードパントリーを始めたいのですが」と
連日様々な団体からお問い合わせが入る状態

「食の支援」に取り組みたい団体にとって、フードパントリーが
選択肢の1つとして当たり前前に存在するようになった。

「フードパントリー」の社会への浸透は、担い手の増加に伴って 支援を必要とする人、支援したい人にも変化をもたらし始めている。

近くで食品を受け取れる場所があるか探してみよう！

食べるものがない……

生活が苦しい……



支援を希望する人

・各フードパントリー自身の広報に加え、行政や支援団体を通じた周知が進み、フードパントリーの存在を知る人の増加。

・フードパントリーの拠点数が増え、「自分の地元にはフードパントリーがある」状態が広がりつつある。多くの人にとって、フードパントリーが身近で利用しやすい存在に。

「フードパントリー」の社会への浸透は、担い手の増加に伴って支援を必要とする人、支援したい人にも変化をもたらし始めている。

フードパントリーの取り組みに協力できるのでは！

過剰在庫、捨てずに役立てられないか...

本業を生かして何か社会貢献を...

とれすぎた野菜を食べてもらいたい...

様々な企業

地域の活動に使ってもらいたい...

食品企業

農家

空き家など

- ・食の支援に対する需要の高まりが、フードパントリーの拡大を通じて顕在化。社会からの関心の高まりへとつながる。
- ・「何らかの社会貢献がしたい」、「地域の役に立ちたい」と考える企業にとって、フードパントリーという受け皿の拡大で本業を生かした多様な支援が実現。

2hjでも、さらに多くの企業・団体との協働を推進し、より多くの食品を受け入れできるよう努めています。

■急拡大するフードパントリーを「点から面」へ

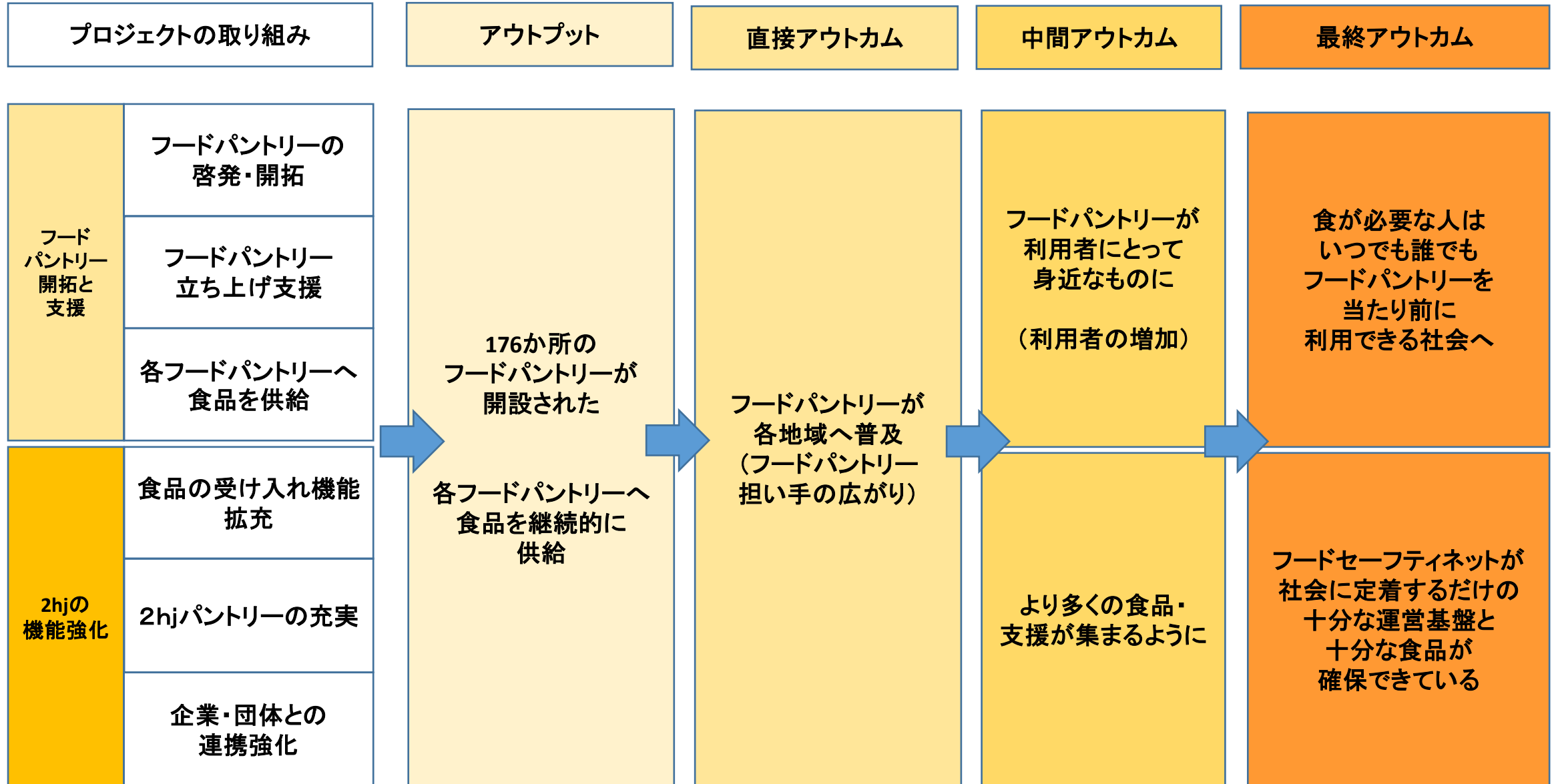
- ・地域のフードパントリー間の事例・ノウハウ共有
 - ・コンセプトの共有と利用ルールの共通化
 - ・開催頻度を上げる
- ー各フードパントリーの個性も生かしつつ、横の連携を深め利用者の利便性を向上。

■物理的なボトルネックをいかに越えていくか

- ・フードバンク・フードパントリーは無償の活動であり、活動の広がりとリソースの確保の兼ね合いは常に課題。
配布する食品の確保、輸送手段、保管場所、配布場所、等・・・
- ー「社会の中で余っている食品」と「必要としている人」を円滑につなぐ仕組みのさらなる強化が必要

その実現には、様々な立場からの参加・協力・連携が重要です！

プロジェクトの成果と社会の変化、今後に向けて ～プロジェクトのまとめ



目指すのは、誰もにとって当たり前
「身近な公共資産」としてフードセーフティネットのある社会



今後も皆様のご協力を宜しくお願いいたします